

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202833		
法人名	社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームよしいの郷 (A棟)		
所在地	佐世保市吉井町橋川内570-4		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	平成29年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成29年10月18日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた静かな場所に位置し、施設内にも広い中庭がありゆとりある建物となっている。入所の方々のケアに関しては、できる事に着目したケアを行なう事を目標とし、入所者の主体性に配慮した生き方を援助しています。又スタッフ各自が自己覚知を行ない、ケアを振り返り自分の傾向を知ること、次のステップへ行くことができるよう内外の研修への参加や指導を行なっています。地域との関わりに関しては、避難訓練をはじめ、地域の行事への参加や週1回のゴミ拾いなどを通して連携と協力を培っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

従来の理念に基づき、今年度「笑顔、優しさ、思いやり」のスローガンを加えた。また、6つの専門委員会を事業所全体で立ち上げ、他部署とも意見交換し支援内容に反映している。地域住民とは行事や避難訓練に留まらず、日頃から交流が盛んである。運営推進会議等には駐在署員の参加もあり、まさに地域ぐるみの見守り体制を構築している。職員の働きやすい職場環境保持に努め、職員は年1回自己評価でケアの振り返りを行っている。年間の研修は、職員の声を基に計画している。職員は、接遇マナーが行き届き、笑顔での対応や言葉遣い等が柔かい。職員は利用者の力を活かしながら、個性や主体性に配慮し思いや願い、暮らし方の意向を掴み、穏やかな普通の生活が送れるよう支援を行っている。利用者の今までの暮らし方を優先し、日課の日誌や化粧、好みの洋服選びなど継続している。利用者が安心して住み慣れた地域で暮らし、好きなことに意欲的に打ち込む様子が見える事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月スタッフ会の折、全員で読み合わせを行ない確認している。	一人ひとりの今を大切に、人との関わりとその人らしい安心ある暮らしの提供を理念に掲げている。毎月会議で、理念を読み合わせている。法人内の委員会において「笑顔、優しさ、思いやり」を、理念の実現に向けたスローガンに策定し、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練への協力や夏祭りへの参加、毎週1回のゴミ拾いなど行っている。又回覧板や市配布の広報などの配布対象となっている。	ホームは町内会に加入している。回覧板で地域情報を得たり、町内会の清掃活動の他、地域イベントではバザーや出し物で参加している。中学生、大学生の職場体験受け入れ、保育園児の歌や踊りの訪問などある。また地域向けの勉強会に職員が講師で出向くなど地域との交流は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年より中学校において福祉教育についての講和をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や出来事の中で、意見を頂いたら、実践していくようこころがけている。	年6回、規程の参加者で開催し、事業所の現状、行事、研修等の報告をはじめ、要望や助言等、意見交換が行なわれている。ヒヤリハットの分析結果から問題点が見え、事故防止、骨折の減少に繋がった事例や警察官から防犯についての説明もあり、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会のメンバーとして入っており、連絡事項やケアに関する情報などの提供もしてもらっている。	行政から最新情報の連絡があり、研修は職員が受講している。介護保険制度の問い合わせや介護に関する質問事項は、佐世保市の手順に沿って、メールなどで行っている。急ぎの場合は、電話で直接担当と連絡を取っている。グループホーム連絡協議会でも情報交換し、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年度当初、所長から身体拘束などの話があっている。又今年自己評価についての採点を行いその中に身体拘束の項目があり、再度確認し合った。	職員会議にて、所長が講師となり身体拘束をしないケアについて学んでいる。外部研修も受講している。今年度は、非常勤職員を含め身体拘束に関するチェックリストを作成し、振り返りを実施した。施錠は夜間のみで、入居者の安全を確保し見守り中心の自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の身体拘束関連と合わせて話があっている。		

グループホームよしいの郷（A棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が周知しているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、家族に対し時間をかけ説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を施設内に設けている。又、苦情受付の機関なども入所の際や施設内に掲示し対応している。	家族等が意見や要望を気軽に伝えられる仕組みや場を利用開始時に説明している。ホーム季刊誌、毎月の手紙などで利用者の様子を伝えながら、家族の意見や思いを尋ねている。遠方の家族とは電話を活用している。家族から聞いた内容は、申し送りで職員は情報共有し、サービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度当初、職員面談を行っている。それ以外でもスタッフ会や事象の折など意見や提案を聞いている。	スタッフ会議や臨時会議、日々の申し送り時など職員は意見・提案している。職員からの意見は会議録にまとめ、管理者が所長へ報告している。所長と管理者は、面談以外にも日常的に職員と話す機会を設けており、研修内容の見直しや勤務体制など全職員の要望を尊重している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤職員から常勤職員への雇用、資格手当・処遇手当の実績に応じた支給など行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人のケアの力量を把握し、必要な研修の受講について選定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市のグループホーム連絡協議会に加入しており、その中で研修に参加することで他の事業所との交流ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から面会や情報の周知を行い、入所後の生活の支障が最小限となるようおこなっている。入所3日間の状態把握集中的に行い、全スタッフが統一したケアができるよう状態把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初は申込の段階で困っていることを聞き、入所が決まってからは、入所後の要望等をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当の居宅ケアマネがご家族と相談し入所について決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝っていただけることはお願いし、終わった時はお礼を伝え、共に暮らすことの意味を理解していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	実際にケアプランの中にサービス担当者に「家族」という項目を作り、家族も支えていることの実感を味わっていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主治医や美容院など全員ではないが、入所前の所に行くことを継続している。	家族や本人から、生活歴を収集している。利用者毎にフェイスシートを作成し、日常の会話から得た情報は追記し職員は情報共有している。家族や知人の訪問は自由である。家族と自宅へ訪問したり、法事に出向いたりしている。地元敬老会への誘いやお祝いのための訪問、自宅近隣の知人のおしゃべり等、馴染みの関係継続がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性など見極め、席決めを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族に会ったときは、挨拶を行い、良い関係性を保っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望が伝えられる方については、その都度お聞きし、意思伝達の困難な方については、職員や家族が代弁者となり希望や意向の把握に努めている。	職員は利用者への言葉掛けの内容や場所、声のトーンを利用者毎に検討している。個別支援時やフリータイムを活用し、個別の思いを汲んでいる。会話が困難な場合は、表情や身振り手振りを交え、思いの把握に努めている。職員が得た情報は、申し送りや個別記録に記載し、職員は情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に担当ケアマネやご家族からお伺いし、入所後の生活がスムーズなものになるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や毎日の引継ぎなど、少しの変化にも全職員が対応できるよう伝達を密に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿ったケアを行い、それが出来ているかどうかのチェックを毎日行い、まとめもモニタリングを行い次にプランに反映させている。	本人・家族の思いや要望等は訪問時や電話で聞いており、ケアプランに反映し、同意を得ている。職員全員で毎日の実践確認表や個人記録から達成度を検討し見直しを行ない、次回のプランに活かしている。目標設定は長期6ヶ月、短期3ヶ月である。本人の現状に即したプランを作成しており、柔軟でわかりやすいプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人チャートやケアプラン実践確認表に記録し、職員間で情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のケアの充実が第一であるが、ご希望があった時は話し合いを行い前向きに検討している。		

グループホームよしいの郷（A棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を把握し、利用者が必要な時は利用できるよう情報周知を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を変更することはないが、遠方など理由があるときは、家族に承諾の元紹介状作成をお願いし、協力医への転院をおこなっている。	かかりつけ医を継続受診している。家族の了承のもとホーム協力医に変更することもある。訪問歯科の利用や眼科、整形外科などの受診も支援し、受診結果は家族と共有している。健康管理記録表に於いて、全利用者の健康状況をわかりやすく管理している。常勤の看護師と主治医との連携で、夜間緊急時の対応もスムーズである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を取っており、常勤職員として看護師の雇用があり、日々の変化に対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはこちらから情報提供を行い、退院時には看護サマリーなどの提供を頂いている。又入院中も見舞いを兼ねた、状態把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制加算の説明の際、終末期のあり方についての「今」の思いを確認している。	利用開始時に、重度化や看取りの対応に関した指針を本人・家族等に説明し、その時点での同意書を得ている。現時点での本人・家族が希望する終末期の場所を確認している。段階に応じて医師や看護師から説明し、家族が希望する終末期の対応を検討し、医療機関との連携で、できる限り希望に沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で、消防署指導による救急法の研修会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎日の見回りと安全点検を始め、3回/年の避難訓練や防火防災講習会への職員の参加などおこなっている。	年3回の避難訓練は夜間想定もある。消防署立会い時の総評を次の訓練に活かしている。消防団や地域の住民の協力体制があり、今年度は合同訓練を計画している。利用者の誘導方法を車椅子利用か自立歩行か、職員が一目で確認できる工夫がある。災害時支援カード綴り等、持ち出し備品の準備や水や食料の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にある項目であり、毎月のスタッフ会で読み合わせを行い、確認している。	利用者の自尊心に配慮した声掛け等、スタッフ会議で検討し、職員は統一して支援している。排泄や入浴など利用者が見られたくないと思うことは、特に配慮している。個人記録は事務所で保管し、日常使用する個人記録は利用者や部外者の目に触れないよう工夫している。現在、ホーム便り等で使用する写真の同意書は検討中である。	ホーム便りやブログの写真掲載について、個人情報の拡散範囲も広がるという観点からも個人情報使用についての同意書の整備が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員全員が利用者のご希望など表出しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に沿って誘導を行っているが、その日の気分で誘導できないときもあるが、無理強いはせずあくまで、納得していただいているからのケアにここがけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日化粧を希望されている方がおられ、毎朝鏡と化粧品を用意し化粧していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には好み物を提供したり、嫌いな物と思われるときは、別のものを提供したり、全量摂取できるようできる範囲内で対応している。	主に主任職員が旬の食材や利用者の嗜好を取り入れ献立を作成している。誕生日には、本人の希望の献立で提供したり、季節行事に合わせた献立・盛り付けなど食事を楽しめるよう工夫している。給食委員会では、献立検討のみならず、嚥下に合わせた盛り付け方や食事介助方法について意見交換し、利用者の食への意欲が増している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のコントロールが必要な方、嚥下が悪い方、摂食障害のある方など、その方の状態に合わせた方法で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きと義歯のある方は洗浄剤につけ口腔ケアを行っている。		

グループホームよしいの郷（A棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入院中リハビリパンツを使用しておられたが、入所後から、徐々に布パンツに替え現在でも継続できている。	ホームでは座位での排泄を支援している。排泄チェック表を作成、利用者毎に必要な支援内容を検討している。利用者の排泄間隔や仕草を基に、トイレ誘導の声掛けすることで失禁が改善した事例がある。また、布パンツやパッド類を使用することで、尿意を自ら表現できる事例もあり、利用者の自信を回復できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつで乳製品の提供や運動による排便の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番の希望がある方については、お聞きし希望に沿った入浴となっている。拒否がある方については、無理強いせず翌日にしたりなど対応している。	日曜日以外、入浴を準備している。週2回を目安に声を掛けている。拒否時は、本人の意思を優先し無理強いせず、日や時間を変えている。脱衣所で、肌の露出が少なくすむよう介助している。利用者が心地よく湯船に浸かれるよう希望の湯温で支援している。柚子湯の他、会話したり歌うなど、入浴が楽しくなるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のリズムを作り、夜間の眠りがスムーズなものとなるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ会の折、職員全員で把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、種々の手作業などを通し集中できるもの体力維持のためのものなど個々にあわせて計画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出で美容院へお連れしている。	日常的にホーム周辺を散歩したり、隣接グラウンドへ出掛け、地域住民と交流している。自宅への帰宅や精霊流し等、利用者の希望内容によっては家族の協力を得ている。その日の希望に沿えない場合は、次の約束を行い必ず実行している。法人車椅子車両を活用し、季節の美しい景色や施設に外出し楽しんでいる。	

グループホームよしいの郷（A棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は管理者が行っているが、数名小額であるがお金を持っておられる。紛失しないよう時々中身の確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけてと言われたときは対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には名札をはり、トイレにも大きく掲示し、混乱をまねかないような工夫をしている。	リビングは開放感があり、入居者がトランプ遊びやソファでテレビ鑑賞したり、職員と談笑したり思い思いに過ごしている。手作りの壁飾りや生け花で季節を感じることができる。掃除はモップ掛けや掃除機を使い職員が行っている。ガラス越しに見える中庭の植物が気分を和らげ、穏やかで居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂の席については、配慮が必要な方がおられ、隣り合わせなど気持ちよく生活していただけるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に家族の写真が貼ってあったり、本人が居心地よく過ごしていただく為の椅子などの持ち込みがあっている。	居室は畳とフローリングの部屋がある。利用者がホームでの生活に馴染めるよう、鏡台やテレビ、椅子など自宅より馴染みの家具の持ち込みは自由である。壁には手作りカレンダーや家族等の好みの写真を貼っている。手摺りの消毒や掃除は職員が行ない、清潔で、家族も寛げる居心地よいスペースである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立して移動できるよう障害物など置かないよう注意している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270202833		
法人名	社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームよしいの郷 (B棟)		
所在地	長崎県佐世保市吉井町橋川内570-4		
自己評価作成日	平成29年9月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然豊かな環境のなかで、ゆっくりと流れる時間をその人らしく本人に合わせた生活リズムと活動内容で過ごして頂けるよう援助している。それぞれのかかりつけ医とも、状態に応じ連携を図るとともに、正看が常勤で勤務しており、状態把握に努め、安心して生活して頂けるようにしている。
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

(外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点)
---------------------------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新たに今年度、事業所の接遇向上委員会で考えた「笑顔、優しさ、思いやり」をモットーに日常的な場面から心掛けて入居者に接するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週月曜日の朝、事業所周辺の地域のごみ拾いなどを実施し、自然と地域の中に溶け込める存在であるよう努めている。また年に1度の夏祭りの参加もしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の職員が時々地域の方対象に勉強会の講師を務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	委員の方のアドバイスを受けながら勉強させていただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に生活福祉課の方とは必要時には行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は現在夜間以外していない。必要時にはご家族に説明、相談をしまわなく行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度所長の方より、内部研修を受けている。今年は自己評価アンケート調査などもあり、各自再認識したり、意識を高める良い機会ができた。		

グループホームよしいの郷（B棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格所得のための自己学習で学んでいるものはいるが、職員はそういう機会はあまり持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に重要説明事項の中で十分に説明はおこなっているが、不明な点が後からあられた場合は、またその際に改めて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置しているが、実際用紙に記入される事がほぼない。入所の重要説明事項の中に、苦情申出窓口があることを説明している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中でも、スタッフ会等でも意見は出しやすい環境にあると思う。またそれを反映するには皆で検討し上司にも相談しながら行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自年度初めに目標管理シートと記入し、それぞれ目標に向かい業務に励み、定期的に評価も行ってもらっている。資格取得を勧めており、今年より資格手当がつくようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で、できるだけ1～2回様々な研修に参加できるように配慮してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の研修を通し、交流や今年は合同ドライブ外出などの企画実施など出来た。		

グループホームよしいの郷（B棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初はもちろんのこと、入所後も傾聴したり、必要に応じ出来る範囲で要望にお応えできるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同じく、ご家族とも、その都度ご本人の状態や問題があった際に介護の方針や例えば医療的な面では、主治医とのパイプ役になれるよう連携を保っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気ゆえに、親近感を持ちやすくなるため、職員の入居者に対する「尊重、尊敬、目上の人に対する言葉づかい」についてしっかり意識してもらうよう、スタッフ会の折は注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る範囲で、ご家族にしかできない事をしてもらい、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力してもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格にもより、難しい面もあるが、なるべく孤立されない様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的には出来ていないが、機会があれば行うように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位にならない事もあられるが、希望や意向の把握には努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、入所前の担当C. Mなどにより情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢や持病に差があらわれるので本人に無理のないよう、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要なケースでは行う事もあるが、全員が揃って話し合いの場を持つことはなかなか難しいので、普段の生活の中や、ご家族の面会の際にご意見を聞いたり、相談させてもらったりしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外に、必要に応じ、入居者によっては別に食事状況や排尿状況の一覧表など見やすく、状態把握しやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は他のサービスの利用を実施している方はいないが、今後必要であれば、検討したい。		

グループホームよしいの郷（B棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や中学生の訪問などを通じ非日常的な雰囲気をも時々味わい楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に在宅からのかかりつけ医で継続されるか、状況に応じご家族と相談し、医療機関を相談しながら選択してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は心掛けて、情報や気づきなどを報告、相談してくれている。状態に応じ出来るだけ臨時受診なども積極的に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者にとって一番負担の無い方向で、主治医、ご家族とも連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際にまず、説明させて頂き、状態の変化に伴い、その都度本人の判断が難しい場合はご家族の意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや心臓マッサージなどの研修は年に一度自供所全体で実施して頂いて、出来るだけ多くの職員が参加するよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回の避難訓練と、今年度より、災害対策委員会の立ち上げで、今後少しずつ協力体制が構築されるように期待している。また毎日夕食後は、施設内外の防火点検を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まだまだ学ぶべきことはたくさんあるが、職員一同、初心を忘れない様に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本、本人のご希望に沿って支援している。無理強いせず、本人の思いを第一にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活も大事にしながら、基本的には自宅で生活されるように本人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室でカラーやを楽しんだり、本人の好きな髪形にしてもらったり、全員ではないが、楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けはなかなか厳しいが、季節の山菜など撮れた時は皮むきなどをしてもらったりすることがある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	目標と現実には難しい所もあるが、主治医に相談しながら、アドバイスを頂き支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別で、口腔ケアの方法や道具なども変えたりし、出来るだけ清潔を保ったり、誤嚥性肺炎などを防ぐように努めている。		

グループホームよしいの郷（B棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人差もあり、病状の進行にもよるが、可能な方は出来るだけ、本人の尿意便意の合図を察知したり、パターンを把握し、自立に近い排泄の形を目標にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	だいたいの範囲で、個別の排便周期を把握しており、それに応じた飲食物での対応やマッサージなどを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全性を第一に考慮し、時間などは決まっているが、体調や精神的な気分にも合わせ無理強いくことなく、入浴を楽しんでもらうように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日その日の体調や状態に合わせて、離床と臥床のタイミングやバランスを考えながらいつでも休息できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録の周知や処方箋の確認、また看護師より助言をもらいながら、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員同じようには出来ないが、出来る範囲で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状態により個人差があるので、あまり外出の機会がない方も少しでも外出できるようにしていきたい。		

グループホームよしいの郷（B棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が問題の無い方はおこずかい程度に所持されており、ほしい物を購入などされることがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方ではあるが、電話や手紙などのやり取りを自由に気兼ねなくされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく季節感を感じれる飾り付けなどをしたり、スタッフの協力により季節の生花などを活けたり楽しんでもらっている。夜間の廊下の灯り（センサー）は睡眠の妨げにならないように調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりの時も複数の時も無理強いせず、自然とその空間で過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や寝具など持ち込まれる方もいたり、その人が安心できる空間づくりを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る方には自立を促すように努めてもらっている。		